

# 中国に勝つ 日本の大戦略

～プーチン流の現実主義が日本を救う～

戦闘なしで中国に勝つ方法とは国際関係アナリスト 北野幸伯 育鵬社  
(はじめに) 日中戦争はもう始まっている

きっかけは2012年11月15日「ロシアの声」に掲載された「反日統一共同戦線  
を呼びかける中国」を読んだことでした、中国がロシアと韓国に「反日統一共同  
戦線」をつくることを提案した、その目的は日本の領土要求「北方4島・竹島・  
尖閣」を断念させる事です。そればかりではなく日本には「沖縄の領有権もない」  
と断言しています、今一つ驚愕の提案は日本の同盟国アメリカを「反日統一共同  
戦線」に引き入れなければならないと。

日本はなぜ第二次世界大戦に負けたのか調べて行く内にハッキリと理由が分か  
った現在の日本は戦前の日本と同じ過ちを犯そうとしている、最大のポイント  
は「アメリカの動き」にあります。

第1章では「反日統一共同戦線戦略が生まれた背景」

第2章では 安倍総理が「反日統一共同戦線戦略」にどう対処してきたか

第3章では「日本人の知らない米中関係の真実」

第4章では「なぜ日本は負けたのか」それを踏まえて「中国に勝つ方法を提示」

第5章では「中国の近未来」についての予測

本書の目的は第一に尖閣・沖縄を守りつつ「日中戦争(実際の戦闘)を回避する  
第二にやむを得ず戦争になっても「勝つ道を示す」ことです。

第一章「反日統一共同戦線戦略」が生まれた背景

◎沈むアメリカ、昇る中国～2008年9月リーマンショックで1投資銀行の負債  
総額はなんと64兆円(日本の税収約56兆円)そして100年に一度と呼ばれる  
大不況、ダウ平均株価は777ドル下落で史上最大の下げ幅、日経平均は1万2  
千円台が10月末には6000円台まで下がった、これで「アメリカ1極の時代」  
が終わった。リーマンショックの8ヶ月前にダボス会議でジョージ・ソロスは  
「現在の危機はドルを国際通貨とする時代の終焉を意味する」と爆弾宣言を  
して世界に衝撃を与えた。

◎変わる日米中関係～「沈むアメリカ・昇る中国」「アメリカ1極時代の終焉」  
中国がアメリカを助ける立場に立った、例えばアメリカ債を買う、つまり金を  
貸すことによって(2017年6月末中国の米国債保有残高は1兆1465億ドルで  
世界第1位、2位は日本で1兆908億ドル)日米関係は反米親中の民主党鳩山  
政権が誕生した同年12月小沢一郎幹事長は大使節団を率いて中国を訪問した  
小沢氏は胡錦濤国家主席との会談時に

「私は中国解放軍の野戦軍司令官です」と言い、アメリカ政府と日本国民を仰天させた、つまりアメリカが沈み中国が浮上したので「今度は日本を中国の属国にしてください」と。

- ◎「米中二極時代」の到来～2009～15 年迄大抵の国は「落ち目のアメリカより中国についての方がお得だぞ！」と考えていた。
- ◎一人勝ちで増長する中国～自分たちの力を過信してしまった。
- ◎「尖閣中国漁船衝突事件」の衝撃～2010 年 9 月 7 日、中国漁船が日本の海上保安庁の巡視船に体当たりした事件で船長は公務執行妨害容疑で逮捕これに対して中国は報復措置 6 項目の中で衝撃の大きかったのは、何の問題もないフジタの社員 4 名が拘束された事と「レアアース禁輸措置」日本は中国の強い圧力に屈し船長を釈放したが中国政府はさらに「謝罪」と「賠償」を要求してきた、しかし 9 月の終わり頃に中国の態度がトーンダウンしてきた、第 1 の理由はアメリカのオバマ大統領が日本を支持的声明でハッキリと日本の味方につき、特に「尖閣諸島は安保条約の適用対象」と宣言した効果は大きかった、第 2 の理由は国際世論が中国に冷淡になってきた事。
- ◎反体制派の「ノーベル平和賞」受賞で暴走する中国  
ノルウェーは中国がノーベル賞の選考委員会を脅迫していたことを暴露、更に受賞後に今度はノルウェー国自体を脅迫していたことが明らかになった。これに対して中国はアメリカ、欧州諸国へのレアアース輸出を制限した。
- ◎オバマの「アジア基軸戦略」  
2011 年 11 月中国の台頭とシエール革命でアメリカは中東の重要性が薄れた。
- ◎尖閣国有化で日中関係が戦後最悪に～2012 年 9 月「尖閣の国有化」手続完了  
中国各地で大規模な反日デモ、一部は暴徒化して日系の商店や工場を破壊し略奪の限りを尽くし中国国防相からは「報復する！」との脅しも出てきた。
- ◎「反日統一共同戦線戦略」の衝撃～2012 年 11 月中国代表団がモスクワで対日戦略をロシアと韓国に提案、アメリカにも参加を求めた。
- ◎オバマに冷遇される安倍総理、優遇される習近平  
2012 年 11 月習近平は総書記・党中央軍事委員会主席に選出され日本では 12 月に安倍晋三が総理大臣に復帰した。
- ◎シリア戦争ドタキャンで失墜するオバマ権威と変わるパワーバランス  
変化の一つ目はイギリスがアメリカを裏切った、オバマがドタキャンする前に「シリア戦争不参加」を宣言してアメリカに衝撃を与えた。  
変化の二つ目は米ロの関係が決定的に悪化した（G7 ではプーチンだけが反戦だった）プーチンは覇権国家の大統領に対して「あなたは嘘を言っている！」と、面と向かって云った。
- ◎中国の罠に嵌った安倍総理～2013 年 12 月安倍総理が靖国神社参拝

これは全く習近平の「思う壺」に嵌った「飛んで火にいる夏の虫」でした。全世界と言っているほど批判された、小泉純一郎総理は在任中に6回も靖国神社を参拝、しかし強い批判は中国からと韓国からしか出なかった、ところが安倍総理が1回参拝しただけで世界中は大パッシング、これぞ中国の「反日統一共同戦線戦略」の結果なのです、中国の罠に見事に嵌ってしまった。

## 第二章「反日統一共同戦線戦略」を無力化させた安倍総理

◎ロシアの「クリミア併合」で救われた安倍総理 ~クリミア併合という歴史的な大事件は靖国参拝で孤立していた安倍総理とアメリカは和解する必要が出てきた、オバマは2014年4月来日「安保条約第5条は尖閣諸島を含む日本の施政権下にあるすべての領土が含まれる」と断言した。

◎アメリカか？ シリアか？ 中国の決断~クリミア併合ではアメリカ・欧州・日本は「対ロシア経済制裁」で一体化（合わせると世界GDPの約53%）非常に厳しい状況に追い詰められ、更に主要な収入源の原油価格が半値に大暴落して、ロシア通貨ルーブルも半値に迄、大暴落とロシア経済を直撃、習近平は米欧日とロシアに挟まれて「どちらにつくのか？」最も有利な立場に立った、そして彼は、はっきりとロシア側についた。

◎ロシア取り込みで中国は最強になれる~中国がシベリアの資源を獲得してしまうと自己完結型の圧倒的な支配勢力となってしまう。

日本は第二次世界大戦でなぜアメリカとの開戦を決意したのか：そう「ABC包囲網」で石油が入ってこなくなったからです。エネルギーがなければ戦争も経済活動もできない、今の中国は日本と同じくエネルギーを中東に依存、ところが海路はアメリカが支配している、そして2014年5月ロシアと中国は史上最大規模の天然ガス契約を結んだ（30年間で約40兆円）中国は「自己完結型の圧倒的な支配勢力」になるための第一歩を踏み出した。

◎アメリカ・イスラム国（IS）への空爆開始~習近平の外交が冴えわたる一方でオバマは迷走、2013年9月シリア戦争ドタキャン2014年2月ウクライナ革命を実現させ、2014年3月ロシアによるクリミア併合、2014年4月ウクライナ開戦（欧米対ロシアの代理戦争）オバマ「イスラム国（IS）への空爆」欧米やサウジアラビアなどスンニ派諸国からの支援こそがISを短期間で一大勢力に成長させた。2014年2月アルカイダはISに「絶縁宣言」アメリカは反アサドでISの利害と一致、アメリカはISの資金源である石油インフラを空爆しませんでした2015年9月ロシアが空爆、ISの石油インフラを容赦なく破壊し尽くしISは資金難に陥り多くは欧州に脱出、そこで欧州では毎週のように大きなテロが起こっている。アメリカはロシアとウクライナで代理戦争を開始、ISとの戦争も開始、そのため益々中国を必要として2014年11月北京でオバマと習近平は会談、オバマは中国との「G2」新大国関係つまり

「米中 2 国だけで世界の問題を決める」構想に賛成した。

◎歴史的だった「AIIB」事件

～2013 年 10 月習政権が打ち上げた巨大な構想「一帯一路」と「アジアインフラ投資銀行 (AIIB)」イギリスが 2015 年 3 月アメリカの制止を無視して参加を決め仏・独・伊が参加を発表、更に韓国・イスラエル・オーストリア、ロシア、ブラジル、エジプト、スウェーデンも・なんと世界 57 ヶ国が参加した。

◎「AIIB 事件の本質」

同盟国がアメリカの言う事を聞かない事は「覇権国家が覇権国家でなくなる」こと、これで中国は「覇権に近づいた」そして米中二極時代に。

◎日本、米国の「完全没落」を食い止める

日本だけがアメリカを裏切らないで日米関係を好転させることになった。

◎歴史的だった「希望の同盟」講演～安倍総理は 2015 年 4 月アメリカ上下両院合同会議で演説「アメリカは世界の希望だ！」これが演題の目的だった。これにより日米は最高の関係に変わった、オバマはツイッターで「歴史的な訪問に感謝する、日米関係がこれほど強固であったことはない」と。

◎目覚めたオバマ

～ほとんどの親米国家が「AIIB 事件」で中国の言う事を聞く衝撃的な事実はオバマ大統領を覚醒させた「我が国の最大の脅威は中国である！」

◎オバマの覚醒で変わるパワーバランス

～アメリカはウクライナを放置して中国パッシングに全力、ネタは「南シナ海埋め立て問題」そしてケリー国務長官はクリミア併合後初めてロシアを訪問「中国叩き」を始めたので「ロシアとの和解」に動き始めウクライナ停戦履行なら「制裁解除ありうる」と、そして米ロは協力して長年の課題だったイラン核問題を「アッ」という間に解決した、ロシアへの経済制裁も解除した。

◎習近平、屈辱の訪米

2013 年 2 月安倍総理は初めてオバマと会った時は 1 時間、ところが習近平は 1 泊二日で会談は計 8 時間、彼は東南アジアの事は中国に任せてほしい「新型の大国関係を築こうではないか！」と、オバマはこの構想に賛意を示した。

2015 年 9 月国連総会が開催された時には世界中の指導者がアメリカに参集し、テレビはローマ法王フランシスコの事ばかり、次にインドのモディ首相と、習近平には冷ややかな反応だった。

◎慰安婦問題の日韓合意 (2015 年 12 月 28 日最終且つ不可逆的解決の為合意)

李明博大統領は 2012 年 8 月竹島に上陸、そして「日王が韓国に来たければ謝罪せよ！」と天皇陛下を侮辱した・日本国民は激怒、2012 年 11 月中国からの「反日統一共同戦線」に嬉々として参加、2013 年 2 月大統領に就任した朴槿恵の外交は告げ口外交と呼ばれ全世界でひたすら「日本の悪口」

を言い続けた、では反日韓国は何故慰安婦合意に賛成したのか～理由は 2015 年に中国経済はボロボロで中国に幻滅した事、もう一つは北朝鮮の脅威が増大した事、そして中国には「韓国を北朝鮮から守る気が全くない事」が分かってきた、そして韓国は同盟国アメリカの方に戻りアメリカに「守って欲しければ日本と和解せよ！」「慰安婦問題を終わらせろ」と脅された、韓国と日本が和解する事で中韓を分断する事に成功した。

#### ◎劇的に改善された日露関係

2016 年 12 月 15 日プーチン大統領訪日両国政府は 12 件、民間レベルで 60 件を超える協力案件で合意（日本側の投融資総額は約 3 千億円）

#### ◎「反日統一共同戦線戦略」の無力化に成功～アメリカは「対ロシア経済制裁」に日本を引き入れる必要があった、2015 年 3 月「AIIB 事件」が起こり全世界はアメリカの影響力低下と中国の強さを知るところとなった。

同年 4 月安倍総理は「希望の同盟」演説をアメリカ議会で行い日米関係を劇的に改善する事に成功、そしてトランプ大統領とも非常に良い関係を築いた。

安倍総理はアメリカ、ロシア、韓国との関係を改善させた結果、中国の「反日統一共同戦線戦略」を「無力化」することに成功した。

～然しこれで引き下がる中国ではない～

#### 第三章 日本人の知らない米中関係の真実

#### ◎「犬猿の仲」だったアメリカと中国～アメリカが戦前戦中、日本と戦う中国を支援したのは共産党ではなく蒋介石の中華民国、1945 年に大戦が終わっても中国内戦はアメリカが支援する蒋介石の国民党、ソ連が支援する毛沢東の共産党との戦いは激化、1949 年 12 月中国大陸は中国共産党が支配を確立した。当然アメリカと中国は犬猿の仲、両国は 1950～53 年朝鮮戦争でアメリカ支援の韓国と中国・ソ連が支援する北朝鮮の戦争は「引き分け」だった。

又、中国とアメリカはベトナム戦争でも対立、アメリカは 50 万人以上の兵力を南ベトナム投入して惨敗。

#### ◎毛沢東は中ソ対立でアメリカとの和解を思いつく～スターリンの後任・ソ連はフルシチョフがトップになり 1956 年有名な「スターリン批判」を行い個人崇拜体制構築中だった毛沢東はこれに激怒、更にフルシチョフは資本主義国との「平和共存路線」を打ち出し 1962 年中国とインドで国境紛争、その時・ソ連はインドに武器を送って支援、当時毛沢東は激怒した 1964 年 10 月中国は原爆実験に成功、同年フルシチョフ失脚するも後任のブレジネフとの和解ならず関係断絶状態 1969 年 3 月遂に「軍事衝突」して毛沢東を恐怖させた、そして驚くべき解決策「そうだとソ連の宿敵アメリカと組もう！」と思いついた

#### ◎毛沢東・決断の裏側～米中和解の時アメリカはニクソン大統領（共和党）米中交渉の中心はヘンリー・キッシンジャーで

毛沢東は大昔の例を思い出しながら「近くの敵ソ連・インド・日本と戦うには遠くの国、アメリカと結ぶべきだなー」と。

◎ニクソンが中国との和解を決意した理由～ニクソンは「ベトナムからの撤退」をスローガンに当選、一方ライバルのソ連は極めて順調に見え技術面でも1957年世界で初めての有人宇宙旅行に成功、流れは「昇るソ連、沈むアメリカ」という感じだった、ニクソンは「ソ連に勝つためには中国と組むしかない」と判断「アメリカは中国を支援する可能性がある」と警告した結果、中国ソ連大戦争は回避されたとも。

◎米中「同盟」の真実～1971年7月キッシンジャーは初めて北京訪問、毛沢東の右腕・周恩来首相と会談「およそ60年間の公人としての生活で私は周恩来よりも人の心を掴んで離さない人物に会ったことはない」と後日の回想談で、毛沢東と周恩来は「中国は絶対に超大国にはならない！」と宣言し、これをアメリカはつい最近まで信じてきていた、なんと1972年の時点で米中関係は「事実上の同盟関係になった」と、キッシンジャーが断言している。

日本では田中角栄が1972年7月に総理大臣に就任9月に訪中してあつと言う間に「日中国交正常化」を成し遂げキッシンジャーは大激怒（米中国交正常化は1979年）

◎すべてを得る事に成功した鄧小平～1976年9月毛沢東死去、その後実権を握った鄧小平は中国を奇跡的経済成長に導いた、1978年10月訪日して東海道新幹線、トヨタ、新日鉄などを視察し日本の発展に大いに驚き・啓発された。

1979年1月「米中国交正常化」が実現、鄧は1～2月アメリカを訪問ロケット・航空機・自動車・通信技術などの企業を視察し、驚き改革の決意を更に固めた。

米中は同月科学交流加速協定を結びカーター大統領は領事館、貿易、科学技術

についての協定にも署名し史上最大の情報流出を招き、更に1981年レーガン大統領が NSDD(国家安全保障決定含む)に署名、先進的な空軍・陸軍・海軍及びミサイル技術を中国に売る事を認可、翌年各分野で米中協力する事を提言、

加えてレーガン政権は遺伝子工学から自動化、バイオテクノロジー、レーザー、宇宙工学、有人宇宙旅行、知能ロボット工学分野及び財政と教育面で支援、更にレーガンは中国の軍事使節団がアメリカの保障の核の一つである国防総省のインターネットやコンピューターネットワーク等のハイテクプログラムを開発した研究機関を訪問する事さえ承認し、そして遺伝子工学、知能ロボット、人工知能、自動化、バイオテクノロジー、スーパーコンピューター、宇宙工学、有人宇宙飛行に焦点を当てた中国の8つの国立研究センターの設立を支援した、理由は二つ「ソ連に対抗する」為と中国は「自由化に向かっている」と信じていた。

◎世界銀行、中国に経済成長の秘訣を伝授する～1983年世界銀行総裁 P 6

は中国を訪れ鄧小平に会い「どうすれば中国がアメリカに追いつけるか？を助言しましょう」と、密約した。

◎二つの大事件で米中関係は危機に

1989年6月の「天安門事件」今一つは、共産主義総本山のソ連が1991年12月に崩壊、米中関係は大戦略的な見地からも深刻な危機に陥る事になった。

◎クリントン・クーデターの衝撃～1993年1月当時ビル・クリントン大統領が就任したが反中だった、中国は驚くべき行動に出て、何とアメリカ政府内に「強力な親中派グループ」を組織し「反中政策」を転換させる事にした、遂に1993年末には反中姿勢の緩和を認めさせた、米中関係は「対ソ同盟から“金儲け同盟”に移行した」当時の中国の一人当たりGDP523ドル、アメリカは2万6441ドルで賃金水準はアメリカの50分の一だったので経営者は勿論の事「中国で生産した方が儲かる」そして13億人の巨大な市場も可能性がある。

◎イラク戦争で没落に向かうアメリカ～2001年ITバブルが弾け空前の好景気が終わり、安保面では9、11同時多発テロが起こりアメリカはアフガニスタン戦争を開始、2003年イラク戦争の開始が「アメリカの没落を加速させた」安保理での承認が絶望的である事を悟ったアメリカは「国連安保理」を無視してイラク戦争を開始、日本は当時「親米一辺倒」の小泉総理時代

◎ソロス（2015年当時世界で24番目の大富豪・ユダヤ系アメリカ人）はイラク戦争でアメリカが没落する事を予言する～ブッシュ大統領（子）は政権で大きな権限を行使し、結果としてアメリカの没落を早めた。

◎アメリカはイラク戦争で戦後の国際秩序を葬り去った

現在の国際法では「戦争をしていいケース」は2つ ①「他国が攻めてきた」時 ②「国連安保理が認めた」時、ところが拒否権を持つ常任理事国の米・英・仏と中・露に割れている、いろんな戦争が起こっているが何とか「合理性を保とう」とする努力は行われていたがイラク戦争に関して事実上アメリカ自身が定めたルールを無視する事で最早「正義の味方」ではなくなった。

◎戦略家ルトワック、中国の「平和的な台頭」戦略を絶賛

「チャイナ1.0」は2000～09年平和的台頭路線の中国を指すルトワック氏の造語で中国に政治・経済の両面に於いて非常に大きな成功をもたらした「平和的台頭」路線の中国を指す。

◎米中同盟を維持しながら中ロ同盟をつくる巧妙さ

～米中同盟を維持しながら一方でロシアと事実上の「反米・中ロ同盟」を作り「アメリカから全く警戒されない」という奇跡的外交に成功。

米ロ関係が決定的に悪化した「ユスコ事件」当時ロシアの石油最大手でロシアNO1の大富豪ホドルフスキー（プーチンを大統領にしたゴッドファーザー）は保身のためにユスコをアメリカに売却交渉していたが

プーチンが知り激怒・逮捕した、今度はアメリカが激怒してロシアへの反撃・旧ソ連諸国で次々と革命、2003年バラ戦争、2004年オレンジ戦争、2005年チュウーリップ戦争=この件に関しては拙著の「プーチン最後の聖戦」集英社インターナショナルに大量の証拠付きで詳述。

～プーチンは中国と共に「上海協力機構（SCO）」を「反米の砦」とする事に、2015年ロシア・中国・インド等大国が参加一大勢力で明快に「反米一極主義」「多極主義推進」とアメリカにとっては恐ろしい存在、中国風に言わせれば「戦う二虎（米・露）を頂上から眺める」事に成功した。

◎ソロス～アメリカ＝悪、中国＝善

～2008年8月アメリカの傀儡国家ジョージアとロシアの戦争にも発展、一方で中国とアメリカの関係には何ら揺るぎも問題も生じていない。ソロスは2010年11月の「フォーリン・ポリシー」で「イギリスからアメリカに覇権が移ったように今度はアメリカから中国に覇権が移動している」と考えていた。ヘンリー・キッシンジャーは著書で「アメリカと中国で仲良く世界を支配しよう」と述べている。

◎そして「アメリカ1極時代」は終わった～2008年1月ソロスはダボス会議で「現在の危機はドルを国際通貨とする時代の終焉を意味する」と発言し世界を驚かせた、明らかに「沈むアメリカ」「昇る中国」

◎親ロシア、反中国として登場したトランプ政権

◎トランプ・クーデター～トランプの「新ロシア・反中国」路線も長くは続かなかった「ロシア・ゲート」に3つの問題点 ①ロシアが親ロシアのトランプを勝たせる為にアメリカ大統領選に介入した疑惑 ②トランプとロシアが結託していた疑惑 ③トランプがロシア・ゲートを操作していた FBI のコミー長官を解任これにより親ロ派大物のプリン大統領補佐官が2017年2月辞職、反中の大物スティーブ・バノンも8月辞任4月に訪米した習近平と会談して、トランプは「我々の関係は非常に良い」と、現在のアメリカに於いて「チャイナ・ロビー」のパワーは「イスラエル・ロビー」を越えて世界で1番強力と。

◎中国はどうやって「トランプ・クーデター」を起こしたか？

「家族を懐柔する事」トランプ大統領の娘イバンカさんとその夫、もう一人の娘ティファニーさんを中国は「アッ」と言う間に味方につけた。

アリババ創業の馬雲（ジャック・マー）氏はトランプと会談「アメリカに100万人規模の雇用を創出する」と約束、ちなみにソフトバンクの孫社長は5万人と宣言し実に20倍、孫氏は「自分の金儲けの為」一方馬雲氏は「習近平の指令」により「トランプを懐柔する為」だった。

◎米中関係の真実から分かる事

①アメリカと中国は日本人が思っているよりズーと深い関係にある。 P 8



- ②親中民主党と反中共和党という一般的な定義は必ずしも当てはまらない。  
ニクソン、キッシンジャーは共和党、反ソの闘士レーガンすら親中だった。
- ③中国はアメリカで強力なロビー勢力になっている（例～クリントン・クーデター、トランプ・クーデター）

（ 前編 ）